

佐賀県の地震活動概況 (2022年4月)

令和4年5月12日
佐賀地方気象台

【4月の地震活動概況】

4月に佐賀県内で震度1以上を観測した地震は1回(下図領域外)でした(3月は0回)。

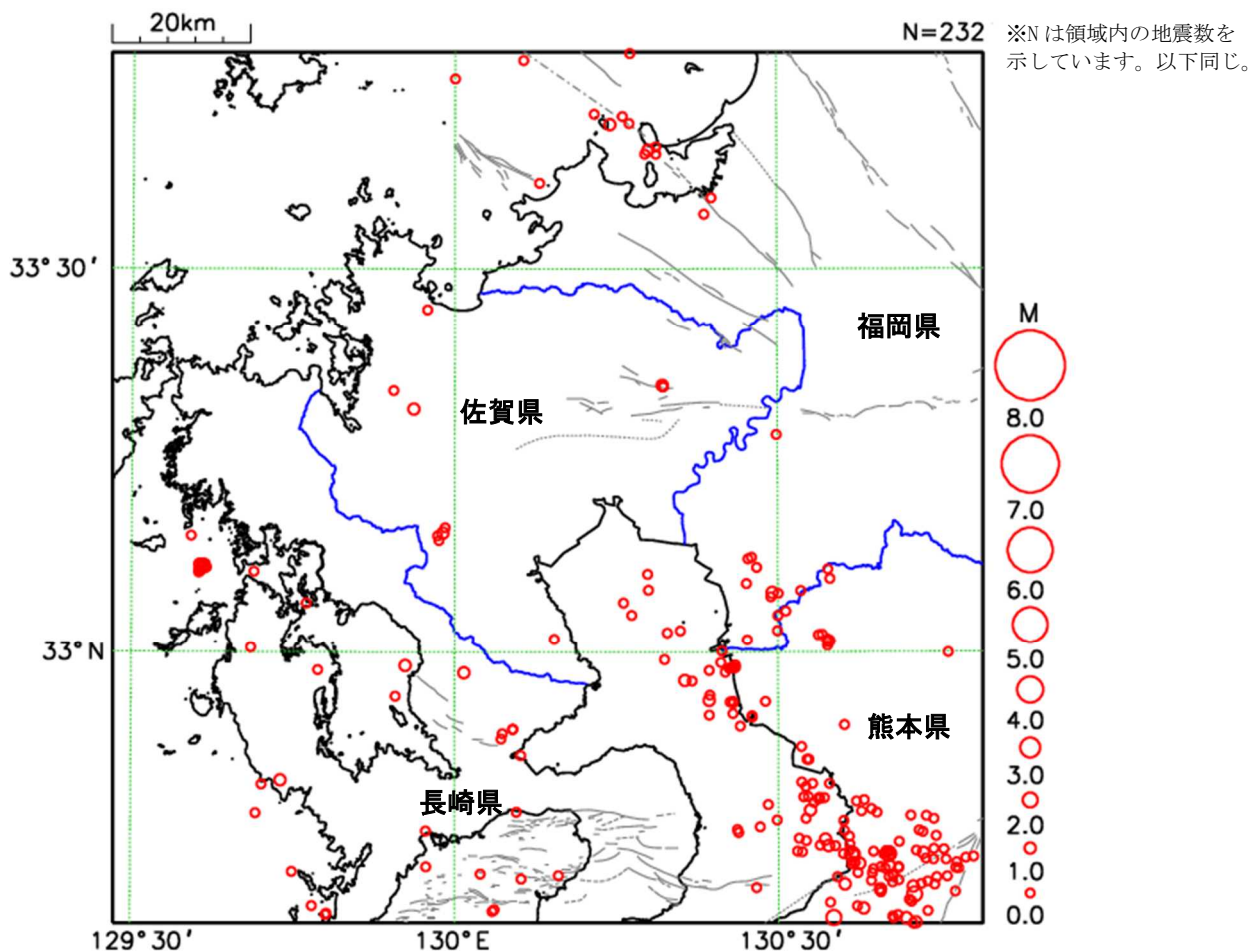


図1 震央分布図 (2022年4月1日~30日、深さ30km以浅、 $M \geq 0.0$)
灰色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

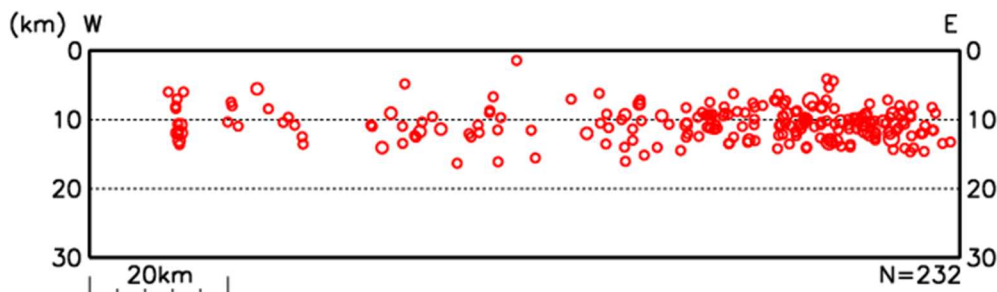


図2 断面図 (2022年4月1日~30日、深さ30km以浅)
震央分布図を南の方から見た断面図です。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

山口県中部の地震（1 頁震央分布図領域外）

23 日 07 時 46 分に山口県中部で M4.2 の地震（深さ 11km）が発生し、山口県の山口市、周南市、防府市、下松市で震度 3 を観測したほか、中国地方、九州地方及び四国地方の一部で震度 2～1 を観測しました。佐賀県では、みやき町、上峰町で震度 1 を観測しました。（図 3）。

今回の地震の震源付近（図 4 領域 a）で発生した地震により、佐賀県内で震度 1 以上を観測したのは、地方公共団体（佐賀県）の震度データの活用を開始した 2001 年 3 月 22 日以降初めてです（図 4～図 5）。

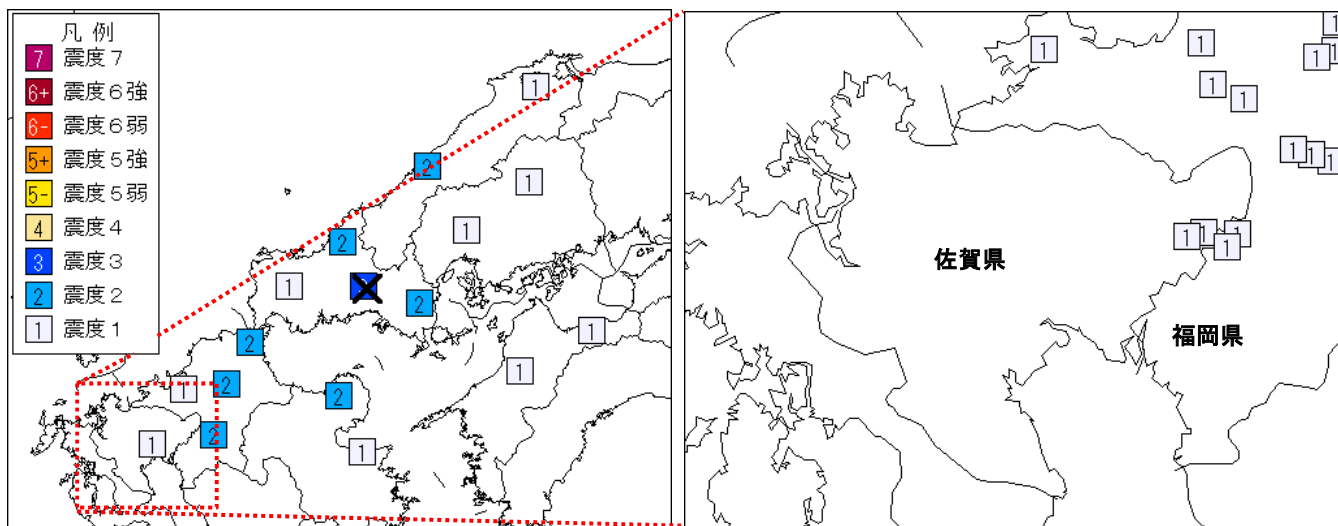


図 3 震度分布図 23 日 07 時 46 分 M4.2
（左図は地域別、右図は観測点別、×は震央）

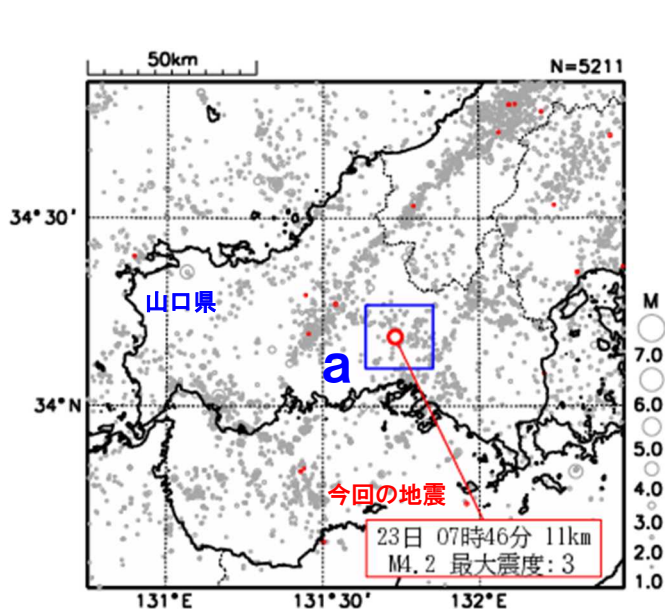


図 4 震央分布図
（2000 年 10 月 1 日～2022 年 4 月 30 日、
深さ 0～30km M≥1.0）
※2022 年 4 月 1 日以降の地震を赤色で表示

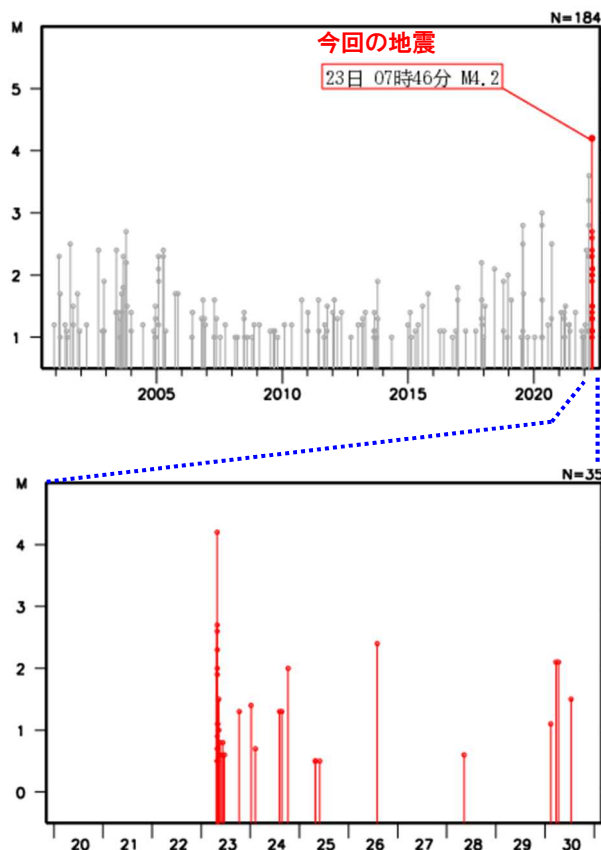


図 5 図 4 領域 a の地震活動経過図
上段：2000 年 10 月 1 日～2022 年 4 月 30 日、M≥1.0
下段：2022 年 4 月 20 日～2022 年 4 月 30 日、M≥0.5

表 1 佐賀県内の震度観測点で震度 1 以上を観測した地震 (2022 年 4 月 1 日～30 日)

地震発生日時刻	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
4 月 23 日 07 時 46 分	山口県中部	34° 11.0' N	131° 43.9' E	11km	M4.2
佐賀県 震度 1 : 上峰町坊所*, みやき町北茂安*					

- ・「*」の付いた地点は、佐賀県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点です。
- ・地震の震源要素（緯度・経度・深さ・M）は暫定値であり、データは後日変更することがあります。

地震資料に使用される図の見方

佐賀地方気象台では、地方公共団体等による日頃の災害予防の活動を支援するため、佐賀県内の地震活動概況を作成し公表しています。また、佐賀県で震度 4 以上の揺れを観測した場合や佐賀県の沿岸に津波警報等を発表した場合には、防災対応に資するために地震解説資料を公表しています。今回は、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」を例として、これらの資料に使用される主な図の見方について解説します。

1. 震度分布図（図 1）

震度分布図は、各地の震度観測点で観測した震度を地図上に表示し、地震による揺れの強さや範囲を表現したものです。震度 5 と震度 6 にはそれぞれ強弱があり、例えば震度 6 強は「6+」、震度 6 弱は「6-」と表示します。また、地震による揺れが広範囲にわたり多数の観測点の震度がある場合には、図が煩雑にならないよう、各地域内、各市区町村内で観測した震度の中で最も大きな震度を代表させて表示することがあります（図 1 は地域別の震度分布図の例）。

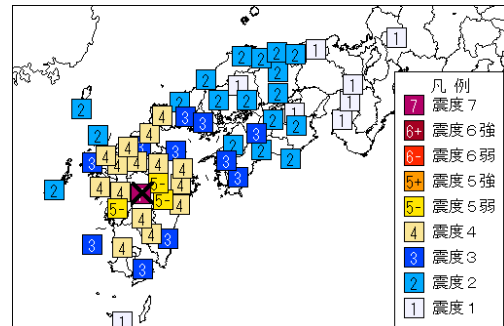


図 1 震度分布図（地域別、×は震央）

2. 震央分布図（図 2）、断面図（図 3）

震央分布図は、地震が発生した場所を地図上に表示し、地震活動の面的な広がり表現したものです。表示するシンボルの大きさや形を変えることで、地震の規模（マグニチュード、以下、「M」）や震源の深さを表現しています。

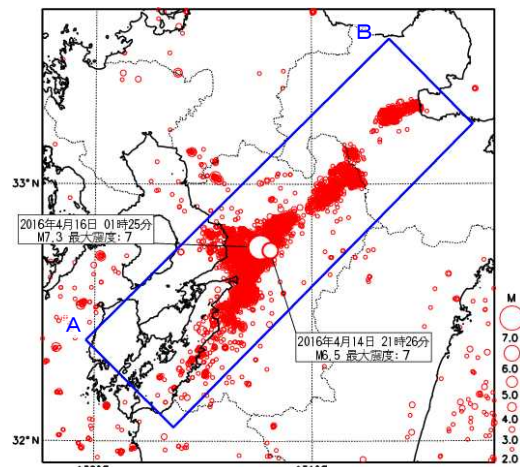


図 2 震央分布図

また、断面図により地震活動の立体的な広がりを表現します。図 3 は、図 2 の矩形で区切られた領域を南東方向から見た断面図です。この断面図を見ると、地震活動が深さ 20km よりも浅い所で発生していることがわかります。

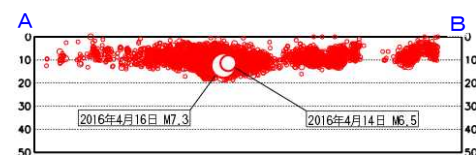


図 3 断面図（A-B投影）

3. 地震活動経過図と回数積算図（図 4）

地震活動経過図は、ある領域内において時間の経過と共にどの程度の規模の地震が発生したかを表現したものです。

また、回数積算図は時間経過毎の地震発生数の積算（合計）数を表現しています。回数積算図を見ることで、発生した地震の増え具合を把握することができます。

図 4 は、図 2 の矩形で区切られた領域内の地震活動経過図と回数積算図です。この図を見ると、2016 年 4 月 16 日に M7.3 の地震が発生した後、時間の経過とともに発生する地震の M は小さくなり徐々に減衰していますが、活動は継続していることがわかります（縦棒は短くなり疎らになるが、折れ線は右上がり傾向が続く）。

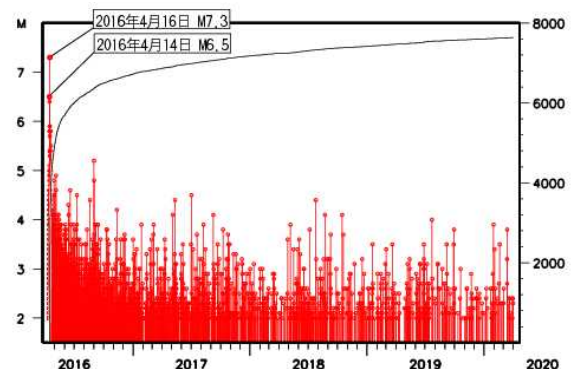


図 4 地震活動経過図および回数積算図